

N I K A
 第99回
二科展
 絵画・彫刻・デザイン・写真
 2014 10月7日(火)～19日(日) 休館日:10/14(金)
 愛知県美術館ギャラリー
 愛知芸術文化センター4階 名古屋・栄 地下鉄/栄、駅下車
 開館時間/10時～18時(入場は17時30分まで) 最終日19日は17時まで
 (高松開館) 10/10(金) 10/17(金)は20時まで
 鑑 賞 券/一般当日・1,000円(前売900円) 学生・小中学生は入場無料
 ■主 催/二科東海展運営委員会
 ■共 催/中日新聞社 CBC テレビ
 二科東海展が愛知の文化を盛り上げます。 愛知の文化を盛り上げます。 愛知の文化を盛り上げます。
 ギャラリートーク(14時) 各部門展示室
 10月11日(土) 14:00～ 入場無料(要予約)



東海地域の芸術の秋に先駆けて 第99回 二科東海展 開催

連日鑑賞者途切れず、圧巻の総点数 630 余点展示。
 ギャラリートークも盛況、
 各部の展示室に作家と鑑賞者の熱気。

絵画部 ● 東海支部長 会員／清水幹男

第99回二科東海展は、平成26年10月7日(火)～10月26日(日)までの12日間、名古屋市・栄の愛知県美術館ギャラリーで開催致しました。10月7日の開会式は、共催の中日新聞社から事業局長の山口宏明様、CBCテレビからCBCクラブ事務局長の石崎裕司様、出品者を代表して絵画部初入選の上山千里さん、支部長・清水の4名によるテープカットで幕開けしました。初日の夜には、市内ホテルの大ホールでの受賞懇親パーティーで、開会を盛り上げました。

会期中程10月11日(土)には絵画・彫刻・デザイン・写真の各部においてギャラリートークを実施し、鑑賞者との交流をはかり、好評を得ました。

展示点数は、絵画217点、彫刻18点、デザイン179点、写真224点の計638点。12日間の総入場者数は8,719人でした。



開幕のテープカット



共催各社の来賓をご案内



彫刻部・デザイン部の展示室



ステージ上の絵画部、彫刻部の受賞者

彫刻部 ● 会員／中村淳子

彫刻部は展示点数は多くはないが、具象・抽象と表現は様々で、素材と形、空間との関わりを意識した作品により、落ち着いた見ごたえのある会場となっている。出品者の思考が着実に進化を遂げていると思われる。

彫刻部では、ギャラリートークの一方法として、制作意図等コメントをキャプションと共に作品に添え、観賞者にいつでも伝わるようにしている。

**若い出品者が多いデザイン部、熟年層が多い写真部。
世代を超えてのコラボレーションが二科の魅力。**



デザイン部の展示室

デザイン部・特別テーマ部門の展示室

写真部の展示室



デザイン部 ● 会員／濱本博司

名称が二科東海展と変わったこの機会に、全国の仲間に当地区の巡回展がどんな環境・状況で開催されているかお知らせできることを喜ばしく思います。名古屋市は人口約 230 万、その中心部・栄に位置する、美術館・オペラ劇場・コンサートホール・小劇場等を併設する「愛知芸術文化センター」内の 8 階「愛知県美術館ギャラリー」をほぼ全室使用し、2 週間にわたって「二科東海展」は開催されています。

今年の二科東海展は、搬入日と会期中盤に台風が 1 つずつ襲来し、一時はどうなることかと心配しましたが、お蔭さまで 9,000 人近い入場者があり、まずまず成功であったと思っています。デザイン部の展示準備は、会員・会友のほか一般出品者も参加し高所作業もこなす、まさに手作りの展覧会です。こうした状況はどの地区の巡回展も同様と思いますが、人手不足・高齢化は否めません。

デザイン部の展示は 2 室に分かれています。彫刻部と同室となる自由テーマ部門の展示室は変化があって心地よいと好評でした。また、特別テーマ・イラストレーション・マルチグラフィックの各部門は 1 室にまとめました。

恒例のギャラリートークは会期中の土曜日に開催、毎年人気の催事です。マルチグラフィックやイラストレーション部門の展示室では、手描きや細かい描写の作品の前で足を止めて顔を近づけてごらんになる人が多くいらっしゃいました。手作りの温かみが眼を引くのでしょう。

また、会員作品をポストカードに印刷して販売していますが、売れ行きも好調です。東海地区では 10 年以上前からデザイン部においてもポストカードを販売していますが、継続する大切さを痛感しています。

写真部 ● 会員／齋場ひさとし

毎年ギャラリートークを行っていますが、今年は受賞者が自ら作品撮影時の状況や作画意図を語ったり、時には質疑応答があるなど、詰め掛けた大勢の来場者に好評でした。

また、大竹省二賞（会員賞）を受賞した樋口幸雄会員は、タイに 20 回以上通い、タイ北部の少数民族を撮影。パーティの壇上で、受賞の喜びと豊富を熱く語りました。

堀内カラー賞を受賞された栗林 誠さんの作品「シャワー大好き」は名古屋の東山動植物園で撮影、アジア象の子供が誕生したニュースは全国に広がり、各地からカメラマンが殺到し大変な盛り上がりを見せ、その時に撮影したのが親子象の作品。会場でも来場者の話題を呼んでいました。

●訃報／岐阜県在住で特別会員の高間新治さん（93歳・会員在籍 41 年）が 9 月 26 日に逝去されました。写真部の重鎮であっただけに誠に残念です。